

第3学年 英語科学習指導案

3年1組 男子22名 女子17名 計39名

指導者 西出 忠司

【授業】13:30～14:20 会場 3年1組（4階）

【協議会】14:15～15:25 会場 3年1組（4階）

1 単元名 Steps 1 ディベートをしよう

2 単元について

（1）単元設定の趣旨

本単元では、「新聞とインターネットではどちらの方がよい情報を与えてくれるか。」という議題について、賛成派と反対派の2つの立場からディベートを行う。生徒たちはディベートの手法を通じて、2つの異なる視点から意見を交わすことで、議題に対してより深く理解することができる。英語科における授業ディベートの定義について、松本茂（2009）は次のように述べている。

授業ディベートとはある論題に対して、対立する立場をとるディベーター同士が、*聴衆を論理的に説得するために議論することである。

*第三者である審判（ジャッジ）を指す。

そして、授業ディベートの目的は、形式的なルールや議論の質や根拠の強さを重視する競技ディベートや一般ディベートと違い、生徒たちの思考力や表現力を育てることにあり、特に教育現場では、英語力の向上が主眼です。※英語教育 2009 年 7 月号思考力と表現力の育成:松本 茂

インターネットやテレビ番組等で討論や議論の形式が増え、相手を論破したり、自分の考えを一方向的に主張し、相手を議論で打ち負かししたりするといったネガティブなイメージがディベートにはあるかもしれない。しかし、本授業実践で目指す授業ディベートにおいては、**論理的で説得力のある主張を行うことを通して、議題のさらなる深い理解や英語能力の向上を目指す**。それはつまり、相手の立論を「正しくない」と示すことに価値をおくことや、「好きなものはよい」「嫌いなものは悪い」といったような主観的主張をよしとするのではなく、聞き手にとって信憑性が高い事実やデータを提示し、相手に対して論理的で説得力のある主張ができることが重要であると生徒に気付かせたい。そして、お互いの立論を反証しあうことで、議題について多角的に見つめ直し、内容の本質についての理解を深めさせたい。

学習指導要領では、英語1目標(3)話すこと〔やり取り〕(ウ)「社会的な話題に関して聞いたことや読んだことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。」を目標としている。本単元では、教科書で扱われる議題だけでなく、「Homework should be banned. (宿題は禁止されるべきだ)」等の生徒の関心を引くような話題を設定し、英語で考えを主張したり、反論したりすることに慣れるための土台作りを行う。そして、本時で行う事前調査型英語ディベートに取り組むにあたっては、議題に対する様々な英文を読んだり、ニュースの音源を聞いたり、原稿を書いたりしながら、根拠の信憑性を常に意識させて批判的な視点から情報収集させたい。また、本時の授業では、根拠を明示し、論理的に立論できているのか、相手の立論の論証部分に反論できたか、相手が提示してくる資料に対して適切な質問をしたかなど、生徒がグループ内で発話内容を動画で振り返り、ループリックに基づいて分析し合う。この活動を通して、自分の英語を振り返り、改善できるように導きたい。

生徒は、これから複雑で曖昧な社会を生き抜く上で、自ら判断し、最適解を見いだす力が今まで以上に求められる。そのためには、それがなぜ最適解になるのか、その判断基準や根拠を相手が納得するよう説明できる能力が重要となってくる。また、ディベートの効用に関して三上貴教（2019）によれば、「(ディベートを行うことで、) 英語力とともに思考力・知的探求力を高める効果だけでなく、自らの主張に対して理由と根拠を明示するアカウンタビリティ (Accountability)

が身につく」とある。ボーダレス化が進み、様々な文化や背景知識をもつ人たちが集うグローバル化社会において、お互いを理解する上で相手が納得するように説明するスキルは必須である。本単元を通して、生徒には様々な視点から物事を見つめ批判的に考える力を付けさせたい。

(2) 生徒の実態

生徒は2学年の「Steps5 説得力のある主張をしよう」という単元において、夏派と冬派に別れ、それぞれの立場から理由を付けて説得力のある主張をすることを学んだ。そして、3学年の前期では、出典を明らかにしたり、メディア等の媒体から必要な情報を引用したりして、主張に説得力をもたせる立論を目標にやり取りを行ってきた。その上で、本単元では自己の立論が正しいと証明するためにも、なぜ相手の立論が正しくないのかを指摘することを通して、相手の主張を正確に聞きとって理解し、自己の経験や例を挙げながら反論できる力を養いたい。

生徒は毎時間スモールトークにおいて、相手に同意したり、相槌を打ったりしながら円滑なコミュニケーションを目指してやり取りをしている。しかし、相手の主張や発話内容に対して疑問をもって聞いたり、質問したりすることに慣れていない。確かに、相手の発話内容を注意深く聞き、反論を考えることは高次の活動ではある。そこで、思考ツールを活用したり、思考の働かせ方を全体で随時確認したりすることを、生徒がその技能を定着させるための手立てとする。

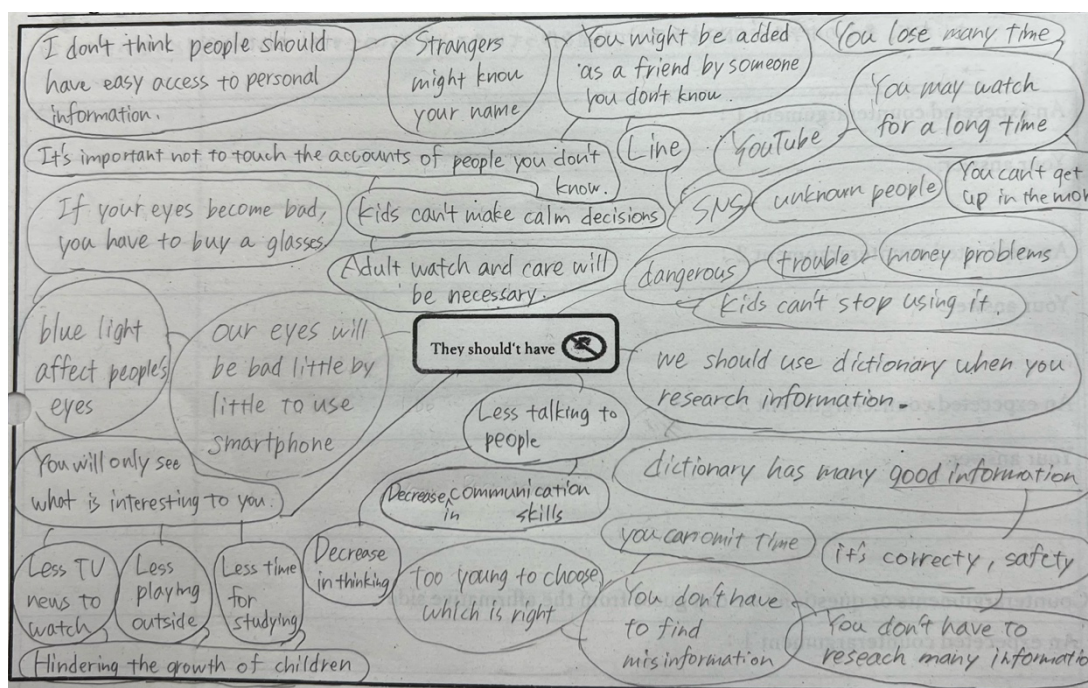
(3) 指導の構え

生徒がディベートという活動を実りあるものにするために、以下のような手立てを講じたい。

・思考ツールの活用

立論する上で、根拠についての考えを整理する際、マインドマップを使用した。マインドマップは思考ツールの中でも言葉の繋がりが視覚的に理解しやすいため、複雑な関係性を整理しやすく、柔軟な思考プロセスを可能にする。そのため、生徒は論点の整理ができ、発話時の話題の想起に役立てることができる。

【生徒が実際に作成したマインドマップの例】



・話題設定の工夫

本時において話題を設定する際、授業ディベートに初めて取り組む中学生にとっての議論のしやすさを心掛けた。そのため、興味・関心が湧きやすく、かつ立論のアイディアが出やすくなるを考える。上記の理由から、本時の授業では「高校生になるまでスマートフォンの使用を許可すべきでない (Kids shouldn't use their smartphones until they're in high school.)」という話題を設定した。ただし、ここでいう「使用」とは、自分名義の携帯を所有し利用することであるとした。3年生の前期で、「よりよい情報を得るためには新聞とインターネットのどちらがよいか」という話題について考えてきた生徒にとっては、取り組みやすい内容である。また、日本ディベート協会が主催する「ディベート甲子園 中学生の部」において、第27回大会でも議論された。スマートフォンを所有している中学生の割合は全国では*85.1%と高く、本校でもその割合は3学年全体で71.1%、本学級では85%にのぼる。つまり、スマートフォンの所有は本学級の生徒にとって身近な問題であり、自分の経験から問題について考えやすい話題であると考ええる。今現在所有していない生徒にとっても自分事であり、肯定派・否定派のどちらになったとしても、立論の根拠を集めやすいはずである。話題について話し合う中で、「どうすれば伝えることができるのだろうか」や「～することができるようになるためにはどうすればよいのだろうか」という課題意識をもって、生徒は主体的にディベートができる考える。

*教育ネット調べ調査対象：教育ネット支援自治体の小学校、中学校児童生徒 3万3294人。

・パフォーマンス評価、ループリックの活用

単元を通して、生徒が授業の目標を理解して学習に取り組めるよう、活動の合間にループリックで自分のパフォーマンスを振り返る場面を設ける。Chromebookで撮影した動画を見返し、発話内容を振り返ることで、できていることとできていないことを自己評価や他者評価する。それによって、生徒が自らの成長を実感し、主体的に英語を話そうとする意欲が向上すると考える。

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

・本単元が目指す「深い学び」の状態について

「身近な話題について、相手の主張に対して疑問をもち、相手の発話内容に対して質問したり、反論したりすることができる。」

本校英語科が考える深い学びの状態は、生徒がコミュニケーションにおいて、「目的」、「場面」、「状況」を自分自身の問題（追究・解決されるべきもの）として捉え、既習の表現を活用したり、新出表現を取り入れたりしながら、やり取りができている状態だと捉えている。

そして、本単元の授業ディベートにおける深い学びの状態を、「身近な話題について、相手の主張に対して疑問をもち、相手の発話内容に対して質問したり、反論したりすることができる。」とした。本単元を通して、相手に対して質問したり反論したりすることで、話題についてより深く理解することができるようになる。そして、本時では相手側の主張を正確に聞き取り、メモを書き、用意してきた資料を読むことによって、初めて相手の主張に対して効果的な反論ができることを知る。その上で、生徒には相手の意見に反対する際に、どのように建設的な意見を述べれば、円滑にコミュニケーションを成立させられるかを問いかけたい。

また、本時の授業ではChromebookで動画撮影を行い、発話内容をループリックで確認する時間を設ける。質問したり反論したりする技能ができているかの確認や、相手の立論を動画で見返すことで、正しく反論するためにはどう質問すべきだったかなどを改めて思考することができる。そうすることで、生徒は自己のコミュニケーションスキルや英語での表現力を見直し、より高度な発話内容へと変化させられると考える。

4 単元の目標

- 話題に沿って、本、新聞、テレビ、コンピュータ等の情報手段を活用して情報を収集し、その情報を自分の立論の正しさとして効果的に用いて、ジャッジが納得するような説得力のある話し方をすることができる。 [知識及び技能]
- ◎ 相手の意見を聞き、不明瞭な点について質問したり、相手の根拠の矛盾点や曖昧な点について建設的な態度で反論したりすることができる。 [思考力、判断力、表現力]
- 話題について深く理解するために、相手に質問したり、反論したりしている。 [学びに向かう力、人間性等]

5 全体計画（全6時間）

時間	授業のねらい（■），言語活動等（丸数字）	評価規順			評価方法
		知	思	態	
1	■ 目指す単元のゴール像を共有する、ループリックの配布 ①ALT と JTE が debate を行なっている動画を視聴する。 ②ディベートについて、学習の目的を理解する。 ③ディベートの学習の流れと学習内容（立論、反論、ジャッジ）について理解する。 ④ディベートの進め方の基本を理解する。	△			ワークシート
2	■ 反論の仕方を学ぶ ①効果的な反論について学ぶ。 ②思考ツールを使い反論の考え方を学ぶ（ワークシート）。 ③相手の立論に対して、反論する方法を学ぶ。		△		ワークシート
3	■ 論題について調べる ①リサーチ方法・引用方法を学ぶ。 ②自分の立場を決める。根拠を調べる。 ③ジャッジの役割について理解する。	△			ワークシート
4	■ Kids shouldn't use their smartphones until they're in high school.の①回目 ①ディベートを行う。 ②Chromebook で撮った動画を見て、リフレクションを行う。	○	○	○	ワークシート 行動観察
5	■ Kids shouldn't use their smartphones until they're in high school.の②回目 ①小グループにてディベートを行う。 ②Chromebook で撮った動画を見て、リフレクションを行う。 ③大グループにてディベートを行う。	○	○	○	ワークシート 行動観察
6	■ Performance Test ①2人1組で JTE とパフォーマンステストを行う。	○	○	○	

△…形成的評価。記録を残さず、学習者の達成度を確認し、授業や単元計画を行うための評価。

○…総括的評価。記録に残し、成績に反映させる評価。

6 本時の学習（全 5/6）

（１）指導目標

- ・相手の立論に対して、質問したり反論したりすることができるようにする。

（２）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点				
1 前時の振返りを行い、本時の学習課題を確認する。 全体					
相手の立論に対して、質問や反論をしよう。					
2 小グループにてディベートをする。 グループ (1) 肯定側立論（1分） (2) 否定側立論（1分） (3) 肯定側反論・質問（2分） (4) 否定側反論・質問（2分） 【グループの形態と役割】 ジャッジ2名は肯定側、否定側の発話内容をルーブリックを基に確認する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>ジャッジ1</td><td>ジャッジ2</td></tr> <tr> <td>肯定側</td><td>否定側</td></tr> </table> 【生徒の発話例】太字は帯学習の定型表現 波線部は思判表の部分 S1: 【賛成側立論例】 I agree with this idea. I have two good reasons to support my idea. First, <u>according to some studies</u>, smartphones can be a big problem for kids, like cyberbullying at school. Second, some communication experts say, “face-to-face interaction is important for developing social skills. So, I believe that kids shouldn't have smartphones until they are in high school. S2: 【相手に質問する技能】 Can I ask you a question?	ジャッジ1	ジャッジ2	肯定側	否定側	・立論を言う場面では、話し手側・聞き手側のどちら側にとっても、ルーブリックを基に目指すゴールの姿を念頭において活動に取り組むよう意識させる。 ・ディベートの流れは、教師主導で進行する。 ・相手にとって分かりやすい英語で発話するよう促す。 ・自分の発話内容が、相手の理解に及んでいないと感じられる場合は、再度発話したり、異なる表現で言い直したりするよう伝える。 ・相手の主張を的確に捉え、反論するためにメモを取るよう伝える。 ・質問や反論に関して、考えをもつことが難しい生徒には、マッピングを確認するように伝える。 ・効果的な反論について、日本語としては理解できていても英語で表現できない生徒に対しては、以下のような表現に着目させ、反論するよう促す。 反論するために参考になる表現 You said “相手の発話内容 “ ,but it' s not true. It' s because 経験や例について説明. What do you think about my idea?
ジャッジ1	ジャッジ2				
肯定側	否定側				

S1: Of course, what is that?
 S2: 【相手の言ったことを確認】
You said, “smartphones can be a big problem for kids, like bullying at school.” **Do you have any other** examples for this?

S1: 【質問に答える技能】
 Thanks for asking. **For instance**, kids want to find answers when they have homework. So, they search for them on the Internet with their smartphone. **As a result, they lose the ability to think critically. That is a big problem.**

S2: 【反論する技能】
I see your point, but I think kids should use smartphones. Because there are many useful apps, and they can help them finish homework. This way, they can enjoy their free time and might even find a new hobby.

4 グループ内で、動画やループリックを生かした反省を行う。 グループ

5 大グループにして、ディベートを行う。 グループ

- (1) 肯定側立論 (1分)
- (2) 否定側立論 (1分)
- (3) 肯定側反論・質問 (2分)
- (4) 否定側反論・質問 (2分)

【グループの形態と役割】

ジャッジ2名は肯定側、否定側は3名となり、3名とも会話可能。

ジャッジ1	ジャッジ2
肯	否
肯	否
肯	否

相手の主張に対して、質問したり、反論したりできている。

【思考・判断・表現】(観察・ワークシート)

・言いたいことはあったが、活動中に英語で表現できなかった生徒には、日本語の使用を認め、グループ内でどのように英語で発話できたかを話し合わせる。

・何を言い返せばいいのかとまどっている生徒には、自分自身の経験や調べてきた根拠を基に話すよう促す。

※立論は3人のうち1人が立論する。 【賛成側反論時のグループ内での会話例】 ※スマホを使うべきではないという反論例 S1: Well, I think . . . S2: Yeah, we see your points, but there is better to not using smartphones. For example, I can't focus on studying when using my smartphone. S3: <u>Also, studying apps can harm kid's eyes. They might not be able to sleep well.</u> ※スマホを使うべきだという反論例 S1: What you said is not true. If kids follow some rules of using smartphones, they can stop using it. And then, they will go to bed on time. S2: <u>Also, by using study apps, we can get good ways to remember something in a good way. It's helpful. Don't you think so?</u> S3: And the first reason you said may not be true. In my experience, I can't study well by my favorite manga. There is no link how much we concentrate on studying and having smartphones. 6 グループ内で、動画やループリックを生かした反省を行う。 グループ 7 本時の学習内容を振り返る。 全体	・反論の場面では、3名で理由や例を思考し、反論や質問ができる生徒から発話するよう促す。 相手の主張に対して、質問したり、反論したりできている。 【思考・判断・表現】(観察・ワークシート) ・日本語では伝えたい内容が分かるが、英語で表現できない生徒に対しては、3名で考える場面を設けることで、既習表現で言うことができないかを思考させる。 ・ループリック上の質問や反論の技能について、ジャッジ主導で振り返る。質問や反論内容をグループ内の8名で動画等を活用して振り返らせる。 ・本単元の振り返りをさせる。
---	--

7 授業観察の視点

- ・本単元の目標に向けて、グループから全体へと学習形態を変更し、ディベートさせた今回の授業の流れは効果的であったか。
- ・生徒の発話内容をループリックや、撮影した動画を基に話し合わせることで改善を図ったことは深い学びの状態へ導くのに有効であったか。